浦山ダム　～重力式コンクリートダムでは日本第２位です～

荒川水系のダムとしては現在随一の規模を誇り、湛水面積が1.2㎢、総貯水容量5800万㎥、堤高が156mあります。

荒川上流部改修から100年 1918-2018

国内ダム屈指の規模を誇る浦山ダム

堤体を下流から望む

分岐管ゲート

事業目的

昭和30年代に入るや、1958・1959（昭和33・34）年には連続水害が発生し、1985（昭和60）年水需給見通しでは、都市用水の需要は飛躍的に増加するものと見られ、荒川水系のダム建設は必須のものとなってきました。浦山ダムは、当初建設省により事業が進められてきましたが、その後、水資源開発促進法並びに水資源開発公団法に基づき1976（昭和51）年10月水資源開発公団（現・水資源開発機構）に承継されました。浦山ダムの事業目的は以下の4つです。

洪水調節	ダム地点の計画高水流量毎秒1,000m^{3}のうち890m^{3}をダムで調節し、ダム下流域の洪水被害の軽減をはかります。
水道用水の補給	埼玉県・東京都・秩父市の水道用水として、新たに毎秒4.1m^{3}の取水を可能にします。
既得取水の安定化・河川環境の保全	河川流量が豊富なときにダムに貯留し、河川に必要な流量が不足しているときにダムから水を補給することによって、荒川沿川の既得用水の取水安定化を図ります。また、河川環境保全のために河川に必要な流量を確保します。
発電	ダムからの放流水を利用して東京発電㈱が最大出力5,000kWの発電を行います。

▶ 浦山ダム・うららぴあ とは

浦山ダムは、荒川の支流浦山川に建つ、重力式コンクリートの多目的ダムで、1998（平成10）年11月に竣工しました。事業調査開始からおよそ30年の年月をかけて完成しました。荒川水系のダムとしては現在随一の規模を誇り、湛水面積が1.2㎢、総貯水容量5800万㎥、堤高が156mあります。重力式コンクリートダムとしては日本で2番目の高さです。また、ダム内部を自由に見学できるよう一般開放しています。バリアフリーに配慮しているのもこのダムの特徴で、ダム見学者向けにダム底部にスロープが、また上部までは専用のエレベータが設置されています。天端には浦山ダム防災資料館「うららぴあ」があり、2階ではダム湖の秩父さくら湖が眺められるほか、浦山ダムの立体模型や荒川水系が一目できるオリジナル絵図などが幻想的な演出で配されています。

「うららぴあ」1階の展望レストランからは、秩父から長瀞にいたる荒川のパノラマが一望できます。 またダム周辺にはいくつかのハイキングコースがあり、ダムサイトはその基点としても利用されています。

所在地：秩父市	堤高：156.0m
ダム形式：重力式コンクリートダム	堤頂長：372.0m
完成：平成10年度	堤体積：175万㎥
総貯水容量：5800万㎥	事業者：独立行政法人水資源機構

ダム諸元

▶ 清水バイパスとは

台風などで大雨が降った時は、一度に大量の濁った水が流れ込み、ダム貯水池の水が濁ってしまいます。そこで、上流からダム貯水池に入る前の綺麗な水を、バイパスで直接ダムの取水設備まで送り、放流するための設備が清水バイパスです。

直径1mの清水バイパスは、上流からダム本体まで約6kmの長さがあります。取水地点と放流地点には約8.3mの高低差があるため、取水口から入った水が、自然流下で運ばれます。

直径１ｍの円管、清水バイパス

コラム さくら湖の命名と弁天様

荒川と桜とはきわめて縁が深く、中下流には数多くの桜の名所、近在にはしだれ桜で知られる清雲寺があり、荒川とアメリカのポトマック川は姉妹河川の提携をしています。さらにダム周辺道路にも桜が植えられていることから、ダム湖は「さくら湖」と命名されました。また、河床部を掘削していた時に弁天様が現れ、それを荒川村（現秩父市）で復元し、ダムサイトに安置して以来、ダムと地域の守り神となっています。

ダムサイトに安置された「さくら弁財天」

アクセス

浦山ダム・うららぴあ

交通：秩父鉄道「秩父駅」より、秩父鉄道バス「浦山大日堂」行き、「浦山ダム」下車、徒歩約30秒
または秩父鉄道「浦山口駅」下車、徒歩約20分

住所：埼玉県秩父市荒川久那4041

浦山ダム・うららぴあ

出典　埼玉県他「秩父の水、清冽！」／埼玉県「荒川　人文Ⅱ」

荒川上流部改修100年の詳しい情報はこちら→